



2026年4月9日

各 位

会社名 株式会社プログリット
代表者名 代表取締役社長 岡田祥吾
(コード番号 9560 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 谷内亮太
TEL. (03)6381-7760

生成AIの進化と当社事業への影響に関する当社の見解について

投資家の皆様からは、昨今の生成AIの急速な進化に関し、「翻訳・同時通訳機能の向上により英語学習ニーズ自体が低下するのではないか」、あるいは「AIを活用して個人や競合が容易に学習環境を構築できるようになり、当社のサービス提供価値が損なわれるのではないか」といったご懸念の声をいただくことがございます。

当社は、生成AIの普及が英語学習市場や競争環境に一定の変化をもたらすことは認識しておりますが、同時に事業機会とも捉えております。実際、生成AIの台頭後も当社の業績は力強く成長しており、AIの普及と英語学習ニーズは共存し得ると確信しております。その主な理由は以下のとおりです。

記

懸念①：AI翻訳・同時通訳の普及により、英語学習の必要性は低下しないか

1. ビジネスコミュニケーションの本質は「情報伝達」ではなく「信頼構築」である

ビジネスにおける英語活用の価値は、単に情報を他言語に置き換えることだけではなく、信頼関係の構築、相手の意図の正確な把握、高度な交渉や意思決定の円滑化にあります。

AIによる翻訳や同時通訳は今後さらに高度化していくと考えられますが、重要な商談、経営対話、機微なニュアンスを伴うコミュニケーションにおいては、「本人が直接理解し、自らの言葉で伝える」ことの価値は引き続き残り、むしろ高まっていくと考えます。また、機密性や情報管理への配慮が求められる場面では、外部ツールへの依存を限定したいというニーズも想定されます。

すなわち、AIがどれだけ進化しても、「自らの言葉で話す」ことによって初めて実現できる信頼構築や対話の質があり、そこへの学習ニーズはなくなると当社は考えます。とりわけ当社サービスの主要顧客である「本気で成果を出したい層」は、AI翻訳と自らの言葉で話すことの違いを十分に認識したうえで、最も確実に成果を出せる手段を求めています。

2. AIによる「スキルの平均化」が、「自らの言葉で話す」ことの希少価値を高める

AIによって誰もが一定水準の英語を使える時代になるからこそ、「自らの言葉で直接交渉し、相手の心に響く対話ができる人」の希少価値はかえって高まります。AI翻訳を介したコミュニケーションが普及する中でも、テンポの良い対話や、繊細なニュアンスが求められる信頼構築の場面では、「自らの言葉で話せる」かどうかが決定的な差になります。

当社の主要顧客層である「本気で成果を出したいビジネスパーソン」は、「AIで代替される業務」ではなく「AIでは代替できないハイエンドな交渉やマネジメント」を担う、あるいは志向する方々です。スキルの平均化が進む中でこそ差別化を追求するこうした層にとって、「自らの言葉で話す」ための英語力習得への動機はむしろ強まると考えており、学習意欲が減退するとは考えておりません。

3. 生成AI台頭後の「当社の成長」はニーズの併存を示す補強材料である

2022年11月のChatGPT公開以降、生成AIの普及によって英語学習の必要性が低下するのではないかという懸念を耳にするようになりました。しかしながら、当社の業績は2022年8月期対比で2025年8月期までに売上高約2.6倍、営業利益約3.7倍へと飛躍的な成長を遂げております。さらに、直近の需要期である2026年1月においては、全サービスにおいて単月過去最高の需要を獲得いたしました。

AI技術が目覚ましく進化する環境下においても当社が成長を継続している実態は、AIと英語学習ニーズが共存していることを示す証左であると捉えております。

4. AIの普及は、「新たな英語学習需要」の創出に繋がる

AI翻訳・通訳ツールの普及により、ビジネスの現場では多くの方が言語の壁を越えて業務に取り組めるようになります。その結果、これまで英語や海外案件に関わる機会が限られていたビジネスパーソンもグローバル業務に参加しやすくなり、関与の裾野が大きく広がります。当社では、この変化を英語学習における「需要層の拡大」と捉えております。

あらゆるツールを効果的に活用するうえで重要なのは、利用者がその領域に関する基礎知識を一定程度有していることです。英語においても同様であり、基礎的な英語力を持つ人ほど、AIツールを的確に使いこなし、正確で質の高いコミュニケーションを実現できます。すなわち、AIが英語力を完全に代替するのではなく、「基礎的な英語力を持つ人が、AIをより高度に活かせる」という構図です。

こうした背景から、新たにグローバル業務に携わるようになった方々が「多少なりとも自分自身で直接理解できた方がよい」と実感する場面が増え、新たな英語学習の動機が生まれます。AIの普及は、英語学習ニーズを消滅させるものではなく、これまで学習に至らなかった層を新たな需要として取り込み、市場の創出につながる機会と考えております。

懸念②：AIの進化により、有償の英語学習サービスは不要にならないか

1. 英語習得の本質的な障壁は「コンテンツの不足」ではなく「継続・実行」にある

書籍からオンライン教材まで、英語学習コンテンツは過去から各時代に十分存在していました。それらを活用して英語を習得した人が多数いる一方で、良質なコンテンツにアクセスできたにもかかわらず習得に至らなかった人はそれ以上に多くいます。この事実は、英語習得の本質的な障壁が「コンテンツの有無」ではないことを示しています。

AIによってコンテンツへのアクセスがさらに容易になっても、この構造は変わりません。本質的な障壁は、適切な目標設定、個々人の英語力や学習場面に応じた優先順位付け、そして学習の継続と振り返りにあります。コンテンツが増えるほど、「何をどの順番でやるか」を正しく選択することの難しさはむしろ増します。

「やるべき教材」はすでに十分に存在します。しかし「どれをどの順番で取り組むか」は個々人の英語力や英語を必要とする場面によって大きく異なります。多忙なビジネスパーソンが限られた時間の中で効率的に学習を進めるための計画づくりとその実行をサポートすること。この点にこそ、当社の英語コーチングサービスの本質的な価値があると考えております。

成果創出の鍵は、学習者一人ひとりの悩みやつまずきの背景を深く理解し、その時々に応じた働きかけを行うことです。厳選されたコンサルタントが、お客様の状況に向き合い、本人も明確に認識できていない課題まで丁寧に掘り下げ、解決策を設計し、信頼関係を前提に伴走するからこそ、学習は継続され、実行力も高まります。

当社が提供する価値は、学習計画の設計にとどまりません。モチベーション管理・時間管理・個別課題の特定・迷いの解消・適切な緊張感のあるコミットメント設計まで含めて、お客様がPDCAのDo（学習の実行）に集中できる環境を、人の力で高い解像度で実現しています。AIによってコンテンツへのアクセスが容易になるほど、この「実行環境の設計と伴走」という当社の役割はむしろ際立つと考えております。

2. 多忙なビジネスパーソンにとって、自ら学習環境を構築することは非効率である

AIの進化により、個人が自らに合った学習環境を整えやすくなることは確かです。しかし、AIを駆使して最適な学習環境を自ら構築・維持できる方は現実にはごく一握りです。多くの学習者にとって、意図した出力にならない、ユーザー体験を自ら調整しなければならないといった問題への対処など、「環境の構築・改善」に時間を費やすこと自体が負担となります。

当社の主な顧客層は、英語習得を重要な自己投資と捉える多忙なビジネスパーソンです。こうした方々の意思決定基準は表面的な「コストの安さ」ではなく「限られた時間の中で最速で成果を出すこと」にあります。多忙なビジネスパーソンにとって、学習環境の試行錯誤に時間を費やすことは合理的ではなく、プロが設計した仕組みに委ねることが「最速で成果を出す手段」となり得ます。

前項で述べた「継続・実行の障壁」と、本項で述べた「環境構築の非効率性」、この二つの課題を同時に解決するのが、当社の英語コーチングサービスです。モチベーション管理・時間管理・個別課題の特定・コミットメント設計まで一貫して提供することで、多忙なビジネスパーソンが迷わず学習に集中できる環境を実現しており、AIの普及によってもこの価値は変わらないと考えております。

3. 当社自身がAIを活用し、サービスの質と競争優位をさらに強化している

AIによって個人が学習環境を構築しやすくなることを、当社の優位性が失われる根拠とする見方には、重要な前提が欠けております。当社自身もAIを積極的に活用しており、学習データ分析の高度化や業務効率化を通じて、コンサルタント1人あたりの担当顧客数とサポートの質を向上させ、利益率の向上に寄与しております。

「誰でも開発できる環境」になったとしても、創業来2万6,000人以上のお客様の支援を通じて積み上げた学習データと専門性、ブランドへの信頼、顧客体験の質といった本質的価値は揺らぎません。むしろ、AIでコストを抑制しながらサービスの質を高めることで、当社はより強力な競争優位を構築していきます。

まとめ

当社は、生成AIの進化によって英語学習市場や競争環境に変化が生じることは認識しておりますが、重要なビジネス場面で成果を出すための英語力へのニーズは引き続き存在し、また、その英語力を限られた時間の中で最短距離で身につけるうえで、学習設計と継続実行を支援する英語コーチングサービスの価値は今後も高いと考えております。

当社は今後も外部環境の変化を成長の機会としての確に捉え、学習者にとって実効性の高いサービスの提供を通じて、企業価値の向上に努めてまいります。

以上